

岡山環状南道路の現場見学会に参加しました！

令和5年8月22日

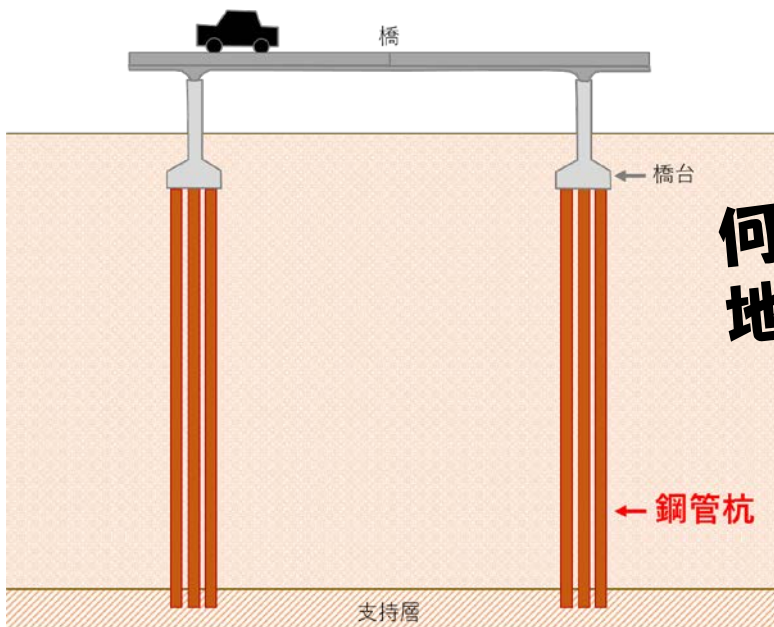


- ① 「令和4年度岡山環状南道路藤田地区橋梁第3下部工事」
で鋼管杭設置の現場を見学し、
- ② 「令和3年度岡山環状南道路東畦地区第1改良工事」
で補強土壁工事の現場を見学しました。

8月22日（火）に行われた、岡山県内の工業高校の先生方を対象とした**岡山環状南道路**の工事現場見学会に参加しました。

まず最初の「令和4年度岡山環状南道路藤田地区橋梁第3下部工事」では、橋梁の橋台の更に下に設置する**鋼管杭**を打設する工事が行われていました。

イメージ図



**何と20m以上も杭を
地中に埋めるのです！**

杭は建物を建てる際にも
打設されることがありますね。



この大きな機械で
杭をどんどん埋めていきます

写真にある大きな機械で、杭をどんどん埋めていきます。地中に20m以上も埋めていくそうです。



現場の後は、現場事務所におじゃましました。

当事務所の職員から岡山環状南道路の事業概要を説明しています。

説明している職員は、今年の春に工業高校を卒業したばかりで恩師の先生の前での説明でした。



工事を行っている施工業者の方からも工事の説明をしていただきました。

右側の方も、工業高校の卒業生だそうです！

授業で使用したら
生徒も喜びそうだ！
というお声もあがっていました。



工事概要説明の他にも、今話題の**BIM/CIMの活用**について説明していただきました。

写真はVRで現場の仮想空間の体験をしている様子です。とても臨場感のある映像だったようです！

※BIM/CIMとは、計画、調査、設計段階から3次元モデルを導入することにより、その後の施工、維持管理の各段階においても3次元モデルを連携・発展させて事業全体にわたる関係者間の情報共有を容易にし、一連の建設生産・管理システムの効率化・高度化を図る取組です。



説明の中で印象に残ったお話し

資料を3次元化することで、直接的に現場の施工が早くなることや楽になることも重要だが、

みんなが同じ作業内容やイメージを共有できること

が作業員全員の理解を深め、事故を防ぐ事ができ、3次元化の本来の目的だと考える。

次に「令和3年度岡山環状南道路東畦地区第11改良工事」を見学しました。

こちらでは**補強土壁工事**が行われていました。



まずは現場事務所で事業概要を説明していただきました。

こちらの工事でもBIM/CIMが活用されており、**施工協議**や**地元説明会の説明資料**、**安全訓練**に使用したりされているとのことでした。

特に、現場の作業員の方が、補強土壁工事が初の方が多いため、ここでも**皆の完成系のイメージの共有に役立っている**とのことでした。

現場事務所を出て補強土壁の現場へと向かいます。



仮設足場の階段は思ったよりも狭くて恐る恐る
登って行きました。



補強土壁の盛土は通常の盛り土よりも締め固め回数が増えるため、時間がかかるとのことのお話しでした。

現場は防護柵以外はほぼ出来上がっているそうです。



間近でバックホウの作業を見学しました。これは大型土のうの土を移動する作業のようです。



これで現場見学会は終了です。

見学会の中では、先生方から施工方法に関する具体的な質問も多く出ていました。

また、卒業生の職員へも、公務員の仕事はどうですか？といったお話しも出ていました。



見学会の帰りに、鋼管杭の設置現場で、杭を溶接している様子を見学できました。



間近で見ると、杭がとても巨大な事がわかります！！この杭を2本現場で溶接して繋げているそうです。

記事作成：計画課 A